

1 本年度の重点教育目標

心ゆたかに たくましく 自らの未来を創り出す子

2 本年度の取組の重点

①知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成 ④校歌・愛唱歌を楽しく歌える児童の育成
 ②一人一人の児童を伸ばす地域と連携した教育活動 ⑤家庭・地域と連携した児童の心身の安全の確保
 ③「深く考え学び合う」子どもの育成 ⑥協働による効率的な教育活動の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成	・計画的・協働的に教育活動を展開できたか。	a	・コロナ禍により、変更を加えつつ、外部機関・推進部の連携により、協働的な活動を展開できた。	A	A	・継続が大切である。
	・インクルーシブ教育の充実が図られたか。	a	・特別支援コーディネータが中心となり、研修・支援委員会の充実を図った。	A	A	
②一人一人の児童を伸ばす地域と連携した教育活動	・児童の実態に応じ地域と連携し教育活動が図られたか。	a	・各種調査、年2回の教育相談、個人懇談を活用し、充実した活動が図られた。	A	A	・個人間や大人とのつながりが重要である。
	・「いじめ」「不登校0」を目指すことができたか。	b	・いじめの認知件数は0であったが、不登校児童の対応については、保護者・関係機関の連携を継続し、「学びを止めない」教育活動に努める。	A	A	・試みは進めるべきである。
③「深く考え学び合う」子どもの育成	・基礎的基本的な知識を身に付けさせることができたか。	b	・全国学力学習状況調査及び各種調査に基づき、十分に身につけている内容もあるが、課題もあり、次年度に向け推進部が連携し計画的に改善を図る。	A	A	
	・ICT（一人一台端末）を活用できたか。	a	・授業改善推進チームの助言を受け、主幹・推進部・学級担任が連携し推進した。	A	A	
④校歌・愛唱歌を楽しく歌える児童の育成	・校歌・愛唱歌をしっかりと歌う活動が図られたか。	c	・全校合唱の準備を進めてきたが、刻々と変わるコロナ禍の状況により実施できなかった。	A	A	・コロナ禍で十分な活動が出来ず残念だが、それでも学びの場、子どもたちの粘り強さを育てたい。 ・練習はしたい、ということの評価する。 ・児童の安全を守るため適切だった。屋外練習やBGMなど、子どもたちが校歌等を好きでいられる工夫をして欲しい。
⑤家庭・地域と連携した児童の心身の安全の確保	・コミュニティ・スクールの取組を活用し推進できたか。	b	・地域コーディネータを中心とした「大森浜見守り隊」の取組が継続されたが、コロナ禍に増員を図ることが十分できなかった。	B	A	・持続可能な地域のネットワークで「大森浜見守り隊」の増員に努力していきたい。 ・試みは進めるべきである。 ・地域との連携はCSとも協働し、コロナ禍でもできる取組を進めて欲しい。
⑥協働による効率的な教育活動の推進	・業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a	・出退勤時刻を客観的に把握することが定着し、子どもと向き合う時間を増やし、個々の働き方の意識改革を図ることができた。	A	A	
	・教職員の資質向上が図られたか。	a	・ミドルリーダーの活躍によりOJTによる実践や各推進部による研修機会が増え資質向上が図られた。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。